

令和6年度重点研研究計画（案）

川和東小学校 重点研推進委員会

1. これまでの経緯

年度	研究経緯
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子どもの姿「自分で考えて行動できる子ども」 決定 ・「問題発見・解決能力」と「自分づくりに関する力」を育てたい資質・能力に
2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で授業実践を行い、成果と課題を共有できた。
3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を「自分づくりに関する力」に一本化し、指導と評価の充実を目指し、授業の中での子どもの姿に視点を当てて、研究
4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体の学習過程を工夫し、問題解決型の授業づくりを研究。
5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に目指す子どもの姿を具体化して、問題解決型の授業づくりを研究

昨年度は「自ら考え行動できる子ども」という主題のもと「目指す子どもの姿の具体化と問題解決的な学習の充実を目指した学習過程の工夫」をサブテーマとして、各学年、1年間で身に付けさせたい資質・能力について年度当初に話し合い、子どもに「思いや考えを伝える力」、「問題発見・解決能力」「伝え合うことで自分の考えを深化させる力」の3つの資質・能力を身に付けさせていけるような授業づくりの研究を進めてきた。

研究を進めてきた中での大きな成果は、年度当初に学年ごとに目指す子どもの姿を具体化したことで、研究授業の単元以外でも学習過程を工夫することができた。具体的には、「伝え合うことで自分の考えを深化させる力」を伸ばすために、各教科のワークシートに友達の考えから気付いたこと、考えたことを記入するようにしたところ、児童の発言やふりかえりに「●●さんの考えと似ていて～」と他者の考えを踏まえた姿が見られるようになった。

一方で、反省からは学年ごとに身に付けさせたい力や教科を変えていたことで学校全体として積み重ねがでない点や「問題発見・解決能力」が伸びていない、どうすれば伸ばすことができるのか」という意見も見られた。「問題発見・解決能力」は単年で身に付けられる力ではなく、日頃の授業の積み重ねから学校全体で意識することで伸びる力だと考える。このことから「子ども達が問題を見つけ、学習計画を立てていく姿」、「子ども達が主体となり、話し合いながら問題解決していく姿」「子ども達自身が自らの学習をふり返って次の学習に向かおうとする姿」などの「自分で考えて行動する力」を身につけた姿に迫るためにも「問題発見・解決能力」を身に付ける学習過程における手立ての工夫を研究していく。

2. 本校で育てたい資質・能力



これまでは、本校の育てたい資質・能力は「問題発見・解決能力」と「自分づくりに関する力」の2本立てだったが、昨年度から「問題発見・解決能力」は「自分づくりに関する力」の中に含まれるという考え方で一本化する。付箋の数を整理することで、より育てたい資質・能力を意識して授業を行っていくことができる。

※詳しくは項目7参照

3. 研究主題

自分で考え行動できる子どもの育成

～目指す子どもの姿の具体化と問題発見・解決能力の育成を意識した学習過程の工夫～

「自分で考え行動できる子ども」というのは、「子ども達が問題を見つけ、学習計画を立てていく姿」「子ども達が主体となり、話し合いながら問題解決していく姿」「お互いの考えや思いを尊重し合う姿」「子ども達自身が自らの学習をふり返って次の学習に向かおうとする姿」などである。この姿は、まさに「問題解決的な学習」を充実させることで見られる姿である。昨年度の反省から「問題発見・解決能力」をより伸ばしていくことで主題の「自分で考え行動できる子どもの育成」に迫ることができると思う。

そこで今年度は、より問題解決的な学習を充実したものにできるよう昨年同様、学年で**目指す子どもの姿**を年度当初に考えることで、各教科で一年間の見通しがもちやすくなり、**単元の中での手立てをより考えやすくなる**と考えた。さらに、「問題発見・解決能力の育成」を重点的に行うことで、子ども自らが学びをつくり、課題を解決していけるような授業づくりの研究を進めていきたい。

4. 研究仮説

教師が**目指す子どもの姿**を具体化して、子ども自ら問題を発見し、解決していくことのできる**学習過程の工夫**をすることで、自ら問題を見つけ、学習計画を立て、話し合いながら問題解決をする**子どもの姿**がより見られるだろう。

5. 研究内容

○目指す子どもの姿を設定し、カリキュラムマネジメントや手立てに生かしていく。

○子ども自らが**学びをつくりだして**いけるような**学習過程の工夫**や教師側の**手立て**などを学年研や指導案検討を通して教材研究、事前検討、事後検証をしていく。

○今年度は教科を**国語・社会（生活）・総合**に絞って研究を進めていく。

←昨年度の反省で教科を絞らないことによって各学年で伸ばしていきたい力を身に付けることができたが、研究会で縦（学年間）のつながりや研究の積み重ねを感じにくいという意見も見られた。そこで、今年度は伸ばす資質能力を一本化することと昨年度のアンケートをもとに教科を絞ることで学年間のつながりや一年間の研究の積み重ねをより意識して研究を進めていきたい。

国語：教員全員が経験する教科で言語活動をゴールに学習問題をつくったり、学習計画を立てたりすることで問題発見・解決能力を伸ばしていくことができる。

社会：社会的事象から学習問題をつくったり、学習計画を立てたりすることで問題発見・解決能力を伸ばしていくことができる。→ある程度、パターンがある。教材研究は大変だが、実践はしやすい。

生活：低学年での調べ学習の核になる。3年生からの社会・理科に繋がる教科として◎

総合：児童自らが問題を発見して、追究していくことで能力を伸ばすことができる。本校の職員では学習したいという意見が出ている。

視点①：単元の中で資質・能力を身に付けた**子どもの姿**はどのような姿なのか。

視点②：問題解決的な学習を通して、どのような**手立て**をうったことで育てたい資質・能力が身に付いたのか。

6. 研究方法

○研究授業（事前授業）・研究会を伴う研究を行う。

○ICT活用については授業の中で有効な場合活用する。必須ではない。

○授業研究会は7月から11月までに4回、国語・社会（生活）・総合の中から学年で1教科選択し、講師の指導を受けて研究を深める。

○授業研究会は、**学年提案**として、部会で指導案検討する

- ・授業で目指す子どもの姿を明確にし、学年の先生全員がどのような子どもを育てたいのか具体的に話せるようにしておく。
- ・授業研究会は、学年提案とし、当該学年と各学年、個別、級外を半分に分け部会に参加し、指導案検討、授業参観、事後検討を行う。
- ・代表者（講師の先生あり）以外の授業公開は事前にミライムで知らせ、参観できる先生は参観する。

注意・・・資質・能力の育成に力はいれるが、単元の目標を達成していくなかで資質・能力を育てていくことを忘れないように。単元目標を無視して資質・能力を育てることが目標となるような授業にならないように注意する。→指導事項を確認していきましょう。

7. 本校の資質・能力について

自分づくりに関する力	自分づくりに関する力の中に含まれる資質・能力
主体性・積極性	願いを持つ
人と関わろうとする力	地域を愛する気持ち
問題発見・解決能力	好奇心 試行錯誤する力 解決策を実行する力 結果から学ぶ力
思いや考えを伝える力	感じたことを言葉にする力 正しい言葉遣い 順序立てて正しく伝える力 相手の思いを受け止めて聞く力
意思決定する力	自己を理解する力
多様性を尊重する力	他者を理解する力
様々な情報を活用・選択する力	事実を解釈し、自分の考えを形成する力
伝え合うことで自分の考えを深化する力	メタ認知

日程（仮）

日付	指導案検討日	科目	研究代表者
7月11日	6月10日	国語	
		総合	
9月13日	7月18日	国語	
		外国語	
10月29日	10月1日	国語	
		生活	
11月28日	10月23日	国語	
		社会	